

抄 聞信義相

1. 題意

本願成就文の「聞其名号」の「聞」と「信心歡喜」の「信」との関係について考察し、両者が「聞即信」の関係にあることを明らかにする。

2. 出拠

(1) 聞^ニ其名号^一 信心歡喜^ヲコト(『大經』卷下「成就文」)(Ref 全 1-24、註釈版 P41)

(2) 「信文類(末)」(Ref 「信文類-牒釈五項」全 2-72、註釈版 P251)

然經言^レ聞者、衆生聞^ニ仏願生起本末^一無^レ有^ニ疑心^一、是曰^レ聞也。

(3) 『一念多念文意』(Ref 全書 P2-604-5、註 P678)

「聞其名号」といふは、本願の名号をきくとのたまへるなり、きくといふは、本願をききて疑ふころなきを「聞」といふなり、またきくといふは、信心をあらわす御のりなり、「信心歡喜乃至一念」といふは、「信心」は、如来の御ちかひをききて、うたがふころのなきなり、

三. 釈名

「聞」とは、本願の名号を疑いなく聞くことをいう(如実の聞)。

「信心」とは、疑蓋無雜(信樂の字訓・法義釈)の信相をいう。

四. 義相^{ぎそう}

(一) 聞即信の構造(Ref 『一念多念文意』全書 P2-604-5、註 P678)

信を以て聞を表す。Ref)「きくといふは、本願を聞いて疑ふころなきを聞というなり」

聞を以て信を表わす。Ref)「きくといふは、信心をあらわす御のりなり」

(二) 何を聞くのか(聞の対象)

1. 広讚聞名…名号のいわれを聞く(仏願の生起本末のものがたりを聞く)

1) 諸仏如来の名号讚嘆である(『大經』下巻 全 1-41、註 P251)。

2) 仏願の生起本末である(「信文類-牒釈五項」全 2-72、註釈版 P251)。

「生起」とは、苦悩の衆生を救済するためという本願建立の訳をいう。

「本末」とは、ア)「因本果末」イ)「因願果力」をいい、「本」とは、如来の作願をいい、

「末」とは、大悲心は既に成就され現に衆生の上に働いていることをいう。

「如来の作願をたずぬれば、苦悩の有情をすてずして

回向を首としたまひて 大悲心をば成就せり」(正像末和讚 38、全 2-520、註 p606)

2. 略讚聞名…本願招喚の勅命を聞く(声そのものをありありと聞く)

3) 本願招喚の勅命である(「行文類-六字釈」全 2-72、註 P170)。

かくのごとく心を至して、声をして絶えざらしめて、十念を具足して南無阿弥陀仏と称せしむ、仏名を称するがゆゑに、念々のなかにおいて八十億劫の生死の罪を除く(Ref 『觀經』下々品、全 1-P63、註釈版聖典p115)。

下々品は念佛する違のない悪人が称名で助かったことを示す、第十八願の乃至十念が衆生の称名を示す出拠となる(平24年安居 大田利生先生)。称えれば、聞えて下さったお名号が働いて下さったのである。

(三) どのように聞くのか 疑いを交えずに聞くのである。

(四) 第二十願文の聞は、聞名を契機に自力念佛の功を回向する不如実の聞である

五. 結び:成就文の「聞」は、聞がそのまま信心となる聞である(聞即信)。 以上